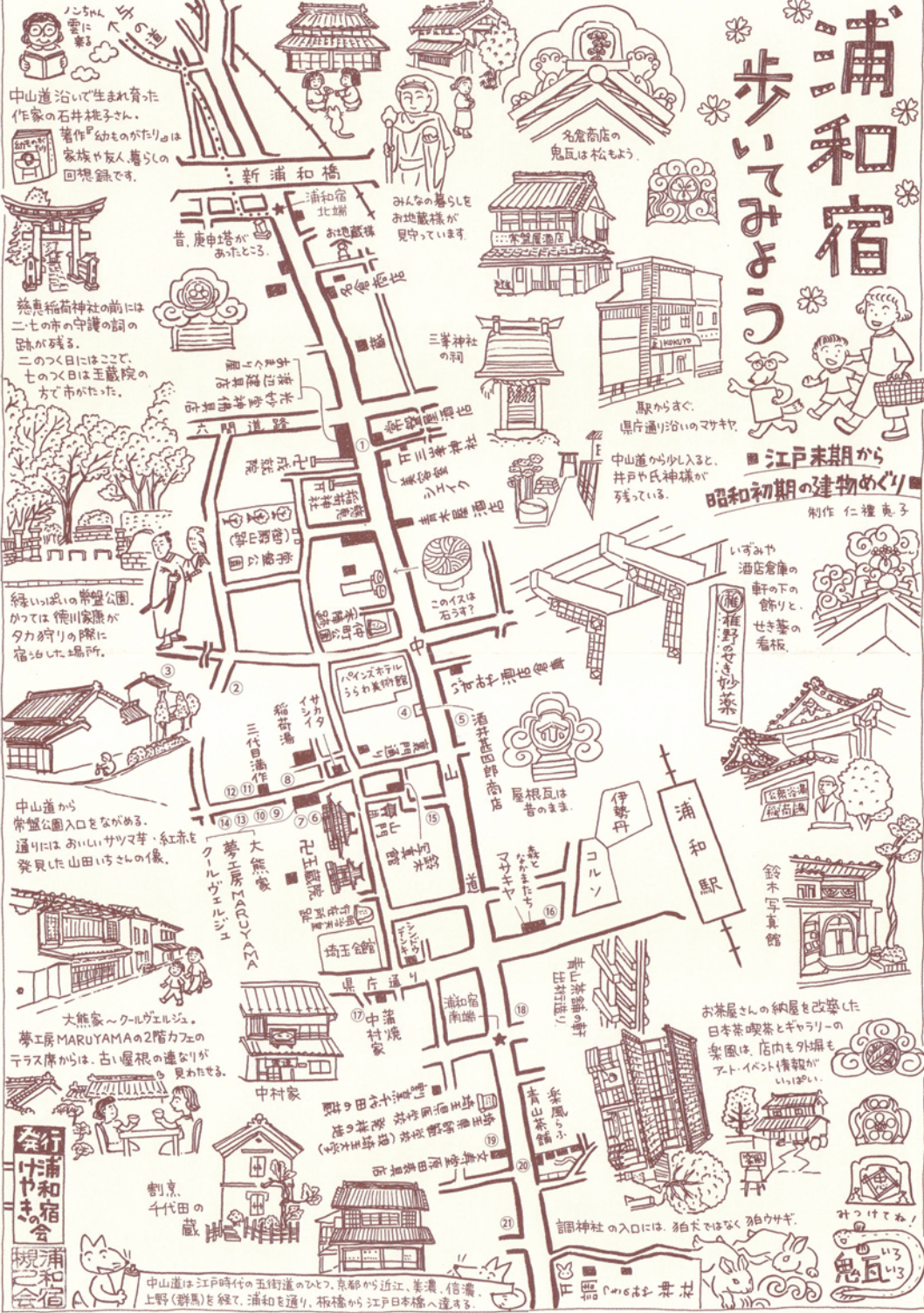


# 浦和宿

## 歩いてみよう

江戸末期から  
昭和初期の建物めぐり

制作 仁禮真子



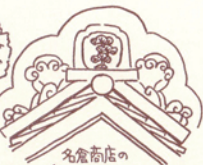
中山道沿いで生まれ育った作家の石井桃子さん。著作『幼少の時代』は家族や友人暮らしの回想録です。



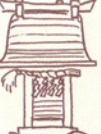
新浦和橋



みんなの暮らしをお地蔵様が見守っています。



名倉商店の鬼瓦は松もよう。



三善神社の祠



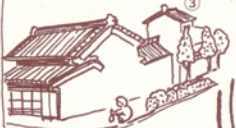
駅からすぐ。県庁通り沿いのマサキヤ



慈恵稲荷神社の前には二七の市の守護の詞の跡が残る。二のつく日にはここで、七のつく日は玉蔵院の方で市がたつた。



緑いっぴいの常盤公園。かつては徳川家康が夕方狩りの際に宿した場所。



中山道から常盤公園入口をながめる。通りにはおおいにサツマ芋・糸糸を発見した山田いちごの像。



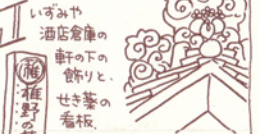
大熊家〜クルヴァエリジ。夢工房MARIYAMAの2階カエのテラス席からは、古い屋根の造りが見わたせる。



割烹 千代田の蔵

中山道は江戸時代の前五街道のひとつ。京都から近江、美濃、信濃、上野(群馬)を経て、浦和を通り、板橋から江戸日本橋へ達する。

中山道から少し入ると、井戸や氏神様が残っている。



いすみや酒店倉庫の軒の下の飾りと、せき葉の看板



お茶屋さんの納屋を改装した日本茶喫茶とギャラリーの楽風は、店内も外堀もアトイスト情報がいっぱい。



おつけてね!



①〜⑫は展示会場です。詳細は裏面をご覧ください。